



対象者

千葉県公立高校入試で社会の得点源化・上位校合格を目指す中学 3 年生（および指導者・保護者）

特に適している生徒

- 過去問を直近 3～5 年分解いたが、初見問題になると急に正答率が落ちる生徒
- 用語の一問一答は解けるのに、短文記述（指定語句）や年代整序で失点してしまう生徒
- 過去問の「答えの記号」を覚えてしまい、2 周目の演習で実力がついている実感がない生徒
- 「直近数年分を解き終えた後、古い過去問にどこまで遡るべきか、どう復習すればいいか」に悩んでいる生徒

本教材の設計思想：過去問 15 年データが教える「学習時間の最適配分」

千葉県公立高校入試の歴史分野（古代～近世中心大問）における過去 15 年間（計 24 試験・全 118 設問）の分析から導き出された結論は、「やみくもに古い過去問を解きまくるべき」という単純な根性論ではない。

1. 直前 3 暦年だけでも、後の入試に関わる命題の「32.2%」が登場している

各年度の直前 3 暦年（前期・後期制の時代は最大 6 試験分）の過去問を調べるだけで、正答決定に必要な具体的命題が少なくとも一部確認できた設問は 32.2%（29/90 問）に達する。短期間の過去問であっても、後の入試につながる知識との接点は約 3 分の 1 の設問に存在する。

しかし、この知識は「正解の記号だけを確認する学習」では見落とされやすい。正答以外の選択肢に含まれる人物や、問題文・背景資料の事実関係まで「命題」として整理して初めて、確かな学習効果が得られる。

2. 2012 年度まで遡ると関与率は「67.8%」に達する（遡及学習の確かな価値）

過去問を遡って照合すると、過年度の具体的命題との一致が少なくとも一部確認された設問は 67.8%（61/90 問）に跳ね上がる（+35.6 ポイント）。時間があり、古い過去問を入手できる環境にあるならば、過去問を深く遡って演習することには大きな価値がある。

3. しかし、すべての受験生に「24 試験分を解き切る時間」があるわけではない

受験生には数学や理科の対策もあり、社会の中でも地理・公民・近現代史の補強が必要である。24 回分もの過去問を自力で解き、すべての選択肢を分析し切る時間を確保できる受験生はごく一部に限られる。

そこで本教材は、受験生の限られた学習時間を最大化するために、以下の「3 段階の学習アプローチ」を提案する。

[第1段階：直近3年分の徹底回収]

手持ちの直近過去問を自力で解き、正答だけでなく誤答選択肢や背景資料まで「命題」としてできる限り取り出す（第5章の処理シートを活用）。



[第2段階：4年以上前の過年度命題を効率的に補充]

時間がなくて遡りきれない4年以上前（2012～2023年度）の過年度過去問については、当研究所の15年分析から抽出された重要命題マスターリスト（第6章）で一気に習得する。



[第3段階：過去問未一致（残り32.2%）への対応]

過去問に同じ命題が確認できなかった設問でも、教科書の基本知識や資料読解力によって対応できる問題はある。基礎知識を補強し、初見資料や異なる知識を組み合わせる問題に取り組むことで、上位校合格に必要な得点力を養う。

【冒頭1分要約：15年・全118設問分析が導いた結論】

【結論】過去問演習のゴールは「答え合わせ」ではない。

直近の過去問を「誤答肢・背景資料」まで徹底回収し、遡りきれない古い過去問のエッセンスは専門家の分析で効率よく補うことである。

2012～2026年度の15年間（全24試験・計118設問）の入試データ（2015～2026年度の同一母数90設問で照合）を分析すると、以下の事実が明らかになっている。

1. 直前3暦年で「32.2%」の設問に命題が存在する（短期間でも高い回収価値）

直前3暦年の過去問を調べるだけで、正答決定に必要な具体的命題が少なくとも一部確認できた設問は32.2%（29/90問）に達する。ただし、正答の記号を覚えるだけの浅い復習では、その知識を見落としやすい。

2. 2012年まで遡ると「67.8%」に関与率が増加する（遡及学習の確かな効果）

過年度の過去問を累積参照すると、同一命題に関与した設問は67.8%（61/90問）となる。古い過去問を遡る学習には間違いなく価値がある。しかし、全24試験分を自力で解いて分析する時間がない生徒のために、本教材がその重要知識を凝縮して提供する。

3. 過去問との一致が確認できなかった「32.2%」にどう対応するか

過年度の過去問に直接同一命題が登場していなくても、教科書で学んだ基本知識や資料の読み取りによって解ける問題はある。したがって、命題一致率が67.8%であることは、得点の上限を意味しない。過去問の徹底復習に加え、教科書・標準教材による知識の補強と、初見資料の処理手順（R3）を身につけることが重要である。

★ 過去問を解いたら、「答えだけ」を覚えるな。誤答選択肢や資料に眠る「命題」を1行で残せ。